



第28回

住まいのリフォームコンクール

入 選 作 品

第28回住まいのリフォームコンクール

住宅リフォームの普及促進と質の向上を図るために、「住まいのリフォームコンクール」を開催しました。単に「リフォーム」と言っても多岐に渡り、これからの高齢化社会に配慮したバリアフリーリフォーム、地震に備えての耐震改修、地球環境に配慮した省エネリフォーム、伝統技術の継承を生かした古民家再生、長く使える工夫を施したリフォームなど様々です。

数ある応募作品の中でも、特に安心・安全・快適な住まいへと変貌を遂げた「リフォーム事例」の受賞作品をご紹介します。様々な創意・工夫に溢れた良質なリフォーム事例に触れることで、今後リフォームを考える方々の少しでもヒントとなれば幸いです。



第28回「住まいのリフォームコンクール」審査講評

住まいのリフォームの優れた事例を表彰してリフォームを推進することを目的とした、(公財)鹿児島県住宅・建築総合センターの主催する「住まいのリフォームコンクール」は今年で28回目となった。今年の応募作品は、木造住宅、鉄筋コンクリート造など22件だが、例年に比べてデザインのレベルの質が高い印象を受け、次年度以降の展開が期待される。

人口減少、高齢化、地球環境問題がますます顕在化しつつある。建築を大切に使い続け、地域の住環境を良好に保つことができるリフォームの果たす役割は重要である。しかし、南九州では、木造建築のシロアリ被害が顕著で、古民家等を改修した際、真壁構造に合板やボードを貼り大壁構造に改修する是非について作品選考の中で話題となった。古民家の木材には、杉以外の松や檜が散見される。ゴキブリ目のシロアリは光でなく風を嫌う習性があり、シロアリに食べられやすいと言われる松材や檜材を大壁で隠蔽してしまうと格好の標的となり、構造材がシロアリに食べられてしまい取り返しのつかない事態になることが多い。シロアリは、柱等の垂直材より小屋組、梁、鴨居等の横架材の方が食しやすく、杉はなかなか食べないと言われており、改修の際にはどのような木材がどこに使われているかを確認する必要がある。改修の際に、伝統的な真壁の構成や土壁のインテリアを大壁のマンション風にリフォームすることは、意匠性やインテリアの質から考えその建築の価値を損なうことになる可能性がある。「ほんもの」の材料が室内に現れている伝統構法の空間は、今ではなかなか再現できないものでもあり、また、真壁構造は構造材が露出しているため、地震災害の際にどこが損傷したか一目瞭然である。災害の多い日本で長年培われてきた伝統構法のよさを、リノベーション等で無にしたいくないものである。

審査委員会は9月14日に開催され、最初に7名の審査委員が22件の応募作品を各自読み込んだ後、一人7票を各作品に投票した。今回は満票の作品がなく、まず表の入らなかった5作品を賞の対象から外し、一票の作品2つと二票の作品5作品について、票を入れた審査委員から評価した点を説明いただき1件ずつ賞の対象作

品として残すのか意見を交換した。結局、敗者復活とはならなかったが、「通り庭に集う家」と題して電器店を住居にリフォームした作品が目をつけた。単に子供たちが里帰りしたときに泊まるだけでなく、昔の電器店の近隣の客達が集うことができるコミュニティの場とした作品で、以前のCD販売の壁面をイメージした棚を設け、閉店した店舗を地域のコミュニティの場とした提案は、今後の商店街活性化のヒントになるような気がする。そして次に、3票以上の票の入った作品毎に、評価できる点と問題点を慎重に意見交換を実施した後に、今度は残った10作品に対して審査委員一人が5票を投票した。その結果、6票集めた「小さな住まいのゆとりある暮らし」を知事賞に、5票だった「築45年木造アパートをフルリノベーションした戸建て住宅」を理事長賞に決定した。その後、得票率から企画賞3作品、奨励賞2作品、特別賞として構造耐震的にすぐれた作品を1点選び、各賞の受賞作品を決定した。



住まいのリフォームコンクール審査委員会
委員長 鯉坂 徹 [鹿児島大学大学院理工学研究科 教授]

■ 審査委員

委員長	鯉坂 徹	鹿児島大学学術研究院理工学域工学系教授
委員	古川 稔	(一社)鹿児島県建築士事務所協会会長
委員	有元 綾	(公社)鹿児島県建築士会女性部会副部会長
委員	木場 正人	(一社)鹿児島県建築構造設計事務所協会会長
委員	岩元 ミユキ	鹿児島県インテリアコーディネーター協会会長
委員	福永 貴幸	鹿児島県土木部建築課住宅政策室長
委員	西園 幸弘	(公財)鹿児島県住宅・建築総合センター理事長

知事賞：『小さな住まいのゆとりある暮らし』

築 30 年の RC 造平屋の住宅の南面と東面に L 型形状に木造の階高の高い建築を増築し、水回りも一掃して改修、老後の夫婦の終の棲家としてリフォームした計画。RC 造のフラットルーフ、白っぽい外装が、東西方向から見ると一新、内部も大きな居間と食堂が庭に面した明るい空間に変貌している。また、RC 部分と木造の接続部は、増築した木造屋根の方が高いため、雨仕舞にも好都合で、その高天井から光が居間と食堂に導入されている。既存の古い木造住宅が解体されたのは少し残念だが、RC 造住宅の木造増築によるリフォーム再利用の事例として、審査員の多くが賛同し、鹿児島県知事賞に選定した。



企画賞：『暮らしに溶け込む茶室』

鉄筋コンクリート造住宅 1 階の 22 帖の洋間を六畳ほどの茶室（和室）に改修した珍しい作品。廊下を設けて蹴口を計画、機能的によく考えられた茶室を実現し、水屋も配置されている。元の打放しコンクリートの内装を生かした天井の間接照明をはじめ、斬新なデザインと質の高いインテリアが審査委員の目をひいた。また、この工事費が約 250 万円であることも評価された。和室から洋室へのリフォームが多い中、茶室（和室）へのリフォームは、魅力ある改修事例として好感がもてる作品である。

理事長賞：『築 45 年木造アパートをフルリノベーションした戸建て住宅』

古くなった木造のアパートは取り壊されて建て替えられるのが一般的だが、二住戸が 2 階にあった築 45 年のアパートの外部階段・廊下を撤去し、家族 5 人の住まいにリフォームした計画。内外部とも、以前、アパートだったとは思えないように改修されており、設計者の苦労が伺い知れる。アパートの改修のため、上下階に連続した耐震壁が設けにくいという問題があるが、大部屋となるリビングダイニングを 2 階に計画することにより、耐震上の問題を解決するだけでなく、リビングへの採光を向上させ、住みやすい住宅に生まれ変わらせている。古いアパートの改修例として高く評価できる。



企画賞：『家具と雑貨で彩られる家』

鉄筋コンクリート 7 階建て共同住宅の約 85 m²住戸をリフォームした作品。寝室・子供室といった個室の居室を狭くしリビングダイニングを充実、ウォークインクローゼットやドライルームなど、生活をバックアップする非居室を確保して住みやすいマンションに改修している。資料の写真から判断すると、内装の仕上げにコンクリート打ち放しや無垢の床材が見え、飽きのこないデザインとなっていると思われる。ただ、外装に面した部分の断熱への配慮をどのように工夫したか説明が欲しかった。

企画賞：『築 47 年の古民家がよみがえった！フレンチも格別の味！』

郊外の築五十年弱の民家をリフォームし、隠れ家的なレストランに改修した店舗付住宅の作品。南面の八帖＋六帖の続き間を板張りの床とし、障子を外して広縁とひとつづきのレストラン空間としている。既存の欄間や鴨居を残し、壁も土壁の上に漆喰を塗り重ねて真壁構造のままとしている。変えるところと変えないところをはっきりさせ、結果として、日本の伝統的な民家の空間イメージをうまく継承しながら、費用も抑えた計画になっている。まだ大工の技術や材料の豊かだった昭和時代の民家の改修で、すでに当時と同様の民家は造りにくいものとなっており、この時代の民家のよさを見出し、うまく活用している点が評価できる。



奨励賞：『住み継ぐ暮らし～ DIY で暮らしに愛着を』

築 30 年、50 m²の民家を自分でできるところは DIY で行い、総工費 400 万円でリフォームした作品。地域と子供の繋がりを考え、長男が生まれたのを機に空き家になっていた実家を改修して引っ越したプロジェクト。天井をなくして 2 階床の根太が見えるダイニング天井や、無垢の床貼り等、DIY ならではのインテリアが評価できる。また、何よりもマンションでは地域に住むことにならないことに気づき、戸建て住宅で地域とともに子供を育てようという建築主の考えにエールを送りたい。是非、未永く住み続けてもらいたいものである。

奨励賞：『安心・安全で 木の良さが感じられる 楽しい家』

築 41 年の在来工法の木造住宅を、無垢の木材をできるだけ用いて、使いやすい平面にリフォームした作品。もともと大壁だった部分もあるが、真壁部分は真壁としてリフォームされており好感が持てる改修方法となっている。食堂と応接間を隔てていた階段の位置を変え、使いやすく明るい居住空間となっている。ただ、階段を外壁側に寄せているため、耐震性への配慮をどのように工夫したか説明が欲しかった。



特別賞：『家族団欒 自然と家族が集まる住まいへ』

耐震診断を実施し、築 45 年の住宅をリフォームした作品。平屋の住宅だが、小屋裏にロフトを設け、そのロフトに至る階段と吹抜け（高天井）を計画し、のびやかな新たな空間が創出されている。耐震性能を大きく向上させている点が評価された。ただ、内外装とも新たな仕上げで覆う大壁構造としているため、シロアリへの対策をどのように工夫したか説明が欲しかった。



知事賞 小さな住まいのゆとりある暮らし

志賀建築設計室



企画賞 築47年の古民家がよみがえった！フレンチも格別の味！

(株)小森昌章建築設計事務所



理事長賞 築45年木造アパートをフルリノベーションした戸建住宅

南国殖産(株)リフォーム事業部



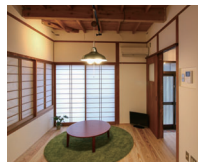
奨励賞 安心・安全で木の良さが感じられる楽しい家

株式会社建築工房匠



企画賞 暮らしに溶け込む茶室

株式会社建築工房 work・space



奨励賞 住み継ぐ暮らし～D I Yで暮らしに愛着を～

株式会社大城



企画賞 家具と雑貨で彩られる家

ヤマサハウス株式会社



特別賞 家族団欒 自然と家族が集まる住まいへ

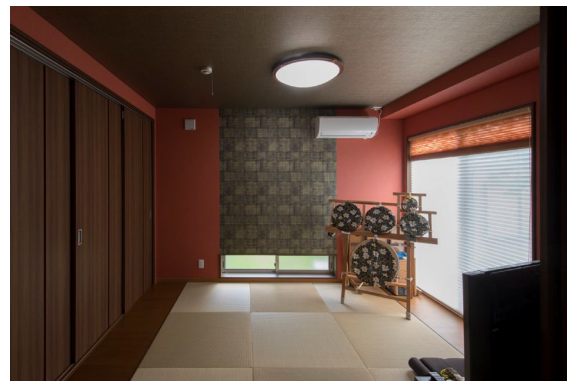
有限会社ゆうあいプラン

リフォーム前



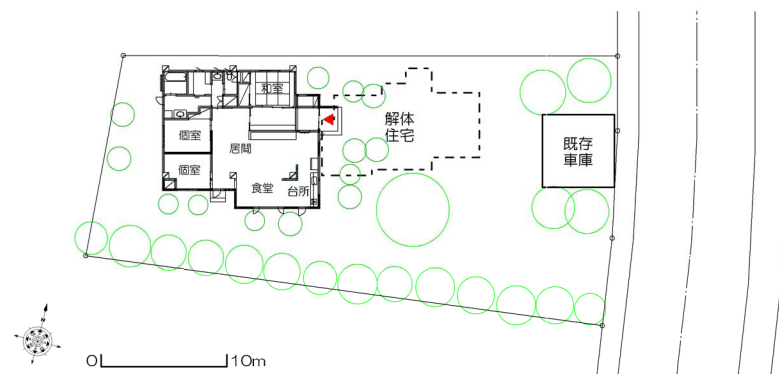
上：南東に位置する和室。明るすぎて障子を閉め切っていた／中：南側に面する 広縁／下：東側外観。既存の木造住宅が建ち迫っている

リフォーム後

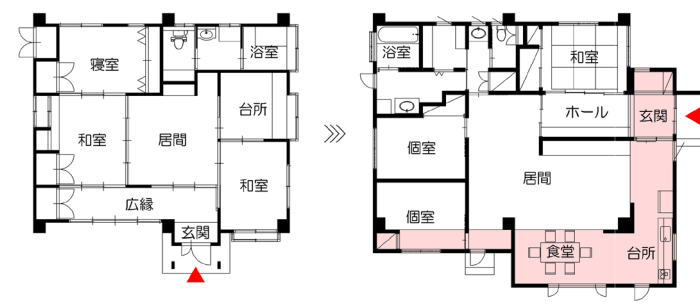


左上：壁を取り払い、LDK は広々した一体空間となった。腰窓のフレーミング効果により庭の植栽が絵画のように切り取られて見える／中央：木造増築部は吹き抜けとし、高窓から光を採ることで、開放的な空間となった／左下左：補強用の鉄柱をアクセントカラーで塗り、構造材を現しのままデザイン的にも活かした／左下右：和室。以前の状態に比べて、弁柄色の壁紙と琉球畳を用いて、モダンな和室となった／右上：手前の木造住宅を撤去したことで、敷地にゆとりが生まれ、緑の中に佇む住宅となった／右中：外壁紺色が既存部、茶色が増築部／右下：緑に囲われた玄関アプローチ

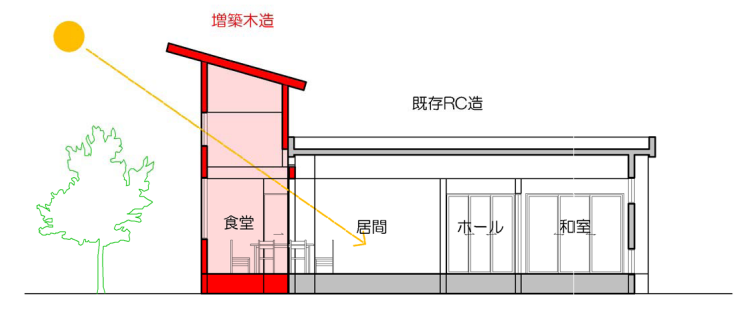
施主は子育てが終わった夫婦で、老後を緑豊かな住空間で過ごしたいという、終の棲み処としてのリフォームであった。敷地は、植栽が豊かで施主は景観をとて大事にしていたため、両親が亡くなり手広になった既存木造住宅を解体することで庭を広くとった。また、シンボルツリーをそのまま活かし、室内から緑が見えるように計画した。部屋がそれぞれ孤立し、暗い印象だったため、LDK を中心に大らかで明るい空間構成を模索した。コンパクトな住まいでありながらゆとりのある暮らしを目指した。



配置図



平面図



断面図

応募者	設計者	施工者	築年数	構造	建方形式	竣工	工事期間	工事費	リフォーム内容
志賀建築設計室	志賀建築設計室	有限会社 有水商事	30 年	在来木造 RC 造	平屋 一戸建て	2017 年 1 月	210 日間	2,100 万円	既存 RC 造の全面リフォーム + 在来木造の増築

リフォーム前



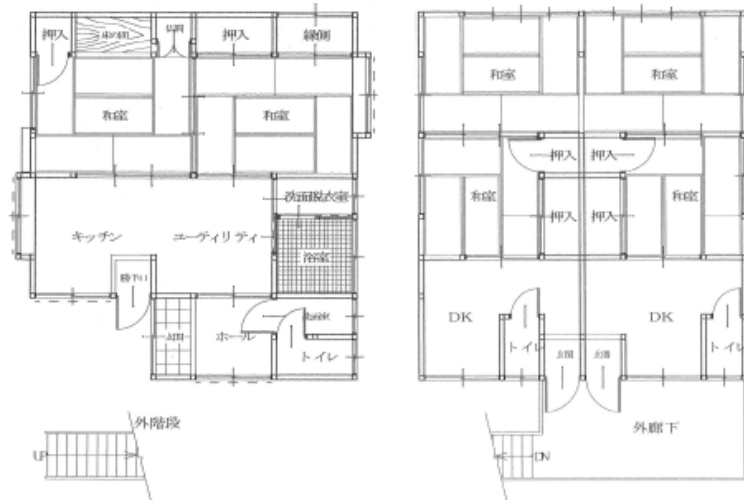
元は施主様のご両親が所有されていた小さな共用住宅。お隣との隙間が狭いため、薄暗く、冷たい雰囲気でした。ほとんどのお部屋が畳、トイレも和式だったので現代の生活スタイルでは使いにくい住宅で、リノベーションなくして生活は出来ない状態でした。

リフォーム後



間取りを工夫することで明るくなり、耐震補強することで安心して住むことが出来るようになりました。外観を見るとやや面影はありますが、内観は見違えるような仕上がり。構造上必要な柱も、子どもの身長を刻むことで愛着がわくものになりました。

リフォーム前平面図



設計施工のポイント（増改築等の工夫）

◆リノベーションに至った経緯
築45年の木造アパートを夫婦＋お子さん3人家族の住まいにしたいとリノベーションの依頼があり、現地ヘインスペクション(住宅診断)に伺いました。外壁はモルタルが部分的に剥離するなど、痛みのひどい箇所はあったものの、雨漏りはなかったため、柱や梁は充分使用できる建物だと判断し、鹿児島市が行う「安全安心住宅ストック支援事業」補助金を活用して耐震補強・断熱改修を加えたフルリノベーションを行うことになりました。

◆プランニングの際、特に気をつけたこと
建物立地が住宅密集地であり、1階はほとんど日の光が当たらなかったため、2階をリビングにすることを提案し、お客様からとても喜んで頂きました。ご主人は庭でバーベキューをすることが夢だということだったので、部屋の一部に広めのバルコニーを採用してリビングからの行き来が出来るよう工夫しました。2階の古い柱を残し、子供たちの現在の身長を刻むことで家とともに子供たちの成長を感じ取れるようにしました。梁にはプランコを取り付けております。子供たちもこの家の事がとても大好きなのだそうです。

リフォーム後平面図



応募者	設計者	施工者	築年数	構造	建方形式	竣工	工事期間	工事費	リフォーム内容
益満敏和	南国殖産(株) リフォーム事業部	南国殖産(株) リフォーム事業部	築45年	木造2階建て	在来工法	平成30年3月	120日間	2,000万円	間取り変更、耐震補強、断熱改修、内外装工事他

リフォーム前



床の間を作りたい

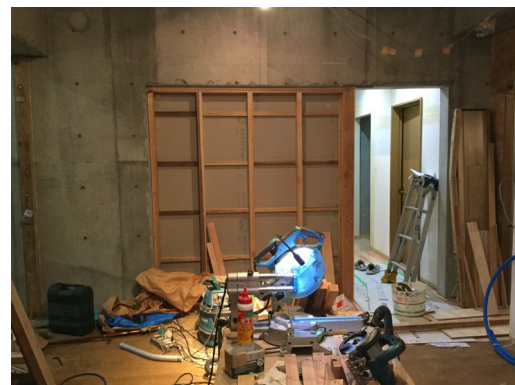


打ち放しの天井



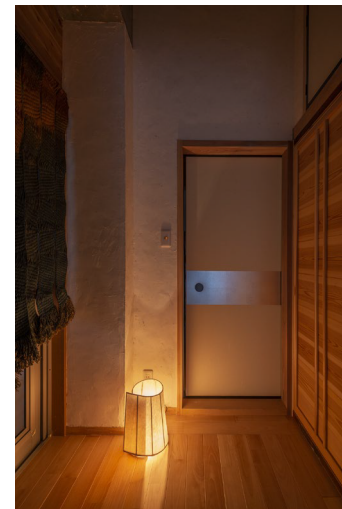
和室にして障子を取り付ける
為の木下地

洋間だった部屋を二つにして洋間と和室を作りたい、和室は客間にし茶の湯を愉しみたい



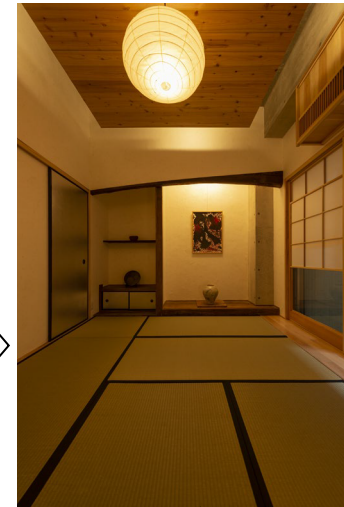
洋室と和室に仕切る
為の壁下地

リフォーム後



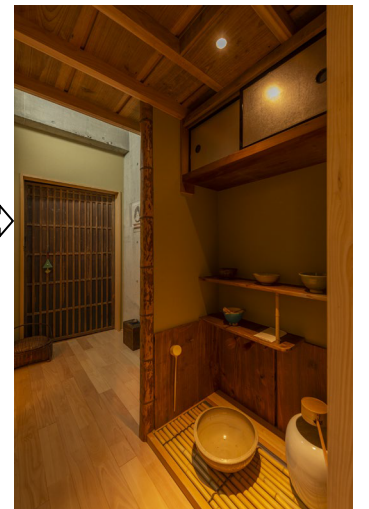
廊下から和室への入口

和室、床ノ間付近の化粧木材は古材を使い重厚な感じに仕上げました

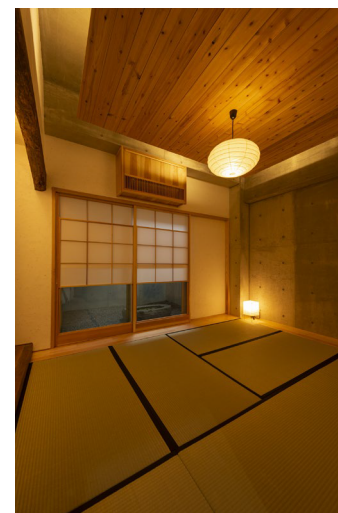


床柱、床地板、床框、落掛、敷居、鴨居、棚は古材で仕上げました

洋間と和室の間に茶道口を設け水屋を作りました
また水屋廻の木材も古材で仕上げています



水屋の天井、天袋の敷居、鴨居、棚竹、腰壁は古材で仕上げました

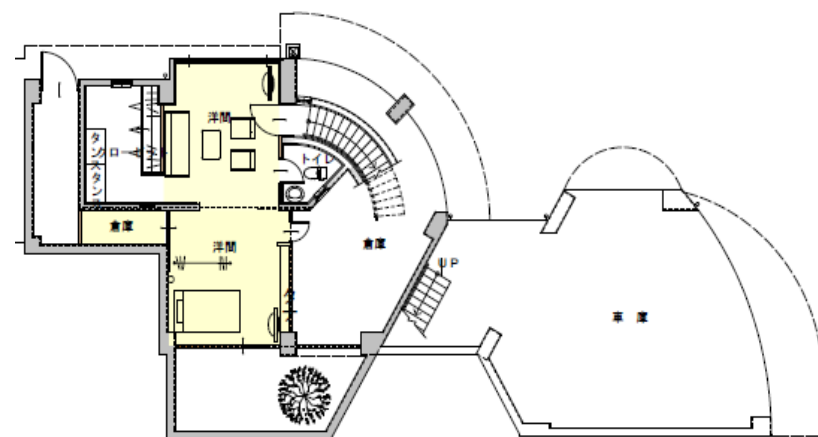


打ち放しの天井の約40cm下に木板の吊天井を設置し、コンクリートの打ち放しの壁と木材を違和感なく仕上げる事が出来ました



障子は雪見障子です

リフォーム前平面図



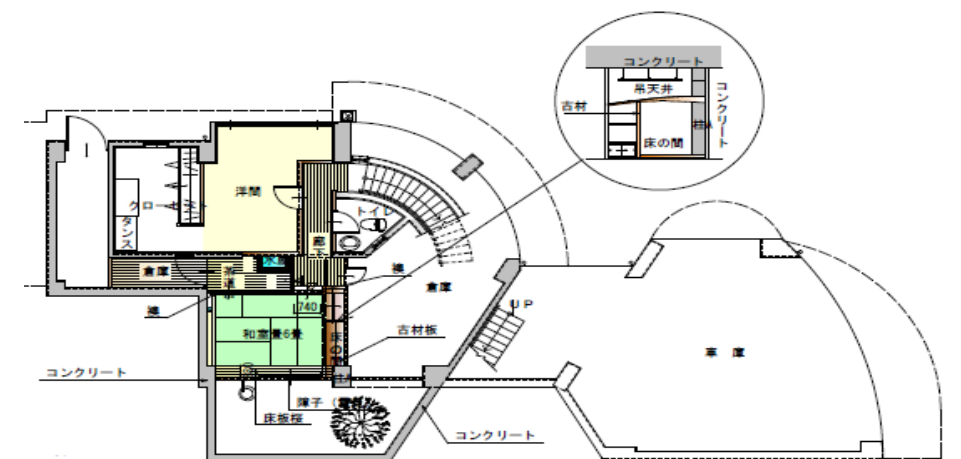
設計施工のポイント（増改築等の工夫）

1階の洋間約22帖の空間に、二つの部屋、和室（茶室）と洋間のレイアウトに苦慮しました。

和室と水屋は古材を各所に仕上材として取り付けることにより、侘びの精神を感じる落ち着いた雰囲気に仕上げる事が出来ました。

鉄筋コンクリート造の中に、日本の伝統技術を用いた和室を取り入れ、「茶の湯」を愉しむ。スピードと情報過多の現在において、自分らしさを失わないためにも、自分と向き合う無の時間が大切なのではないかと思います。そんな願いを込めて、リフォームで新たな価値を創造して頂ければと思います。

リフォーム後平面図



応募者

設計者

施工者

築年数

構造

建方形式

竣工

工事期間

工事費

リフォーム内容

株式会社建築工房
work・space

株式会社建築工房
work・space
大城 孝一

株式会社建築工房
work・space

15年

鉄筋コン
クリート
造2階建

一戸建

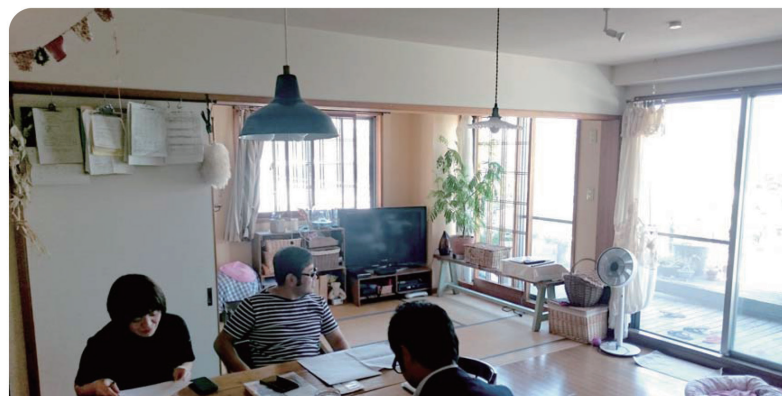
平成30年7月

40日間

250万円

内部改修・模様替え

リフォーム前



Before

外からの光が届きにくく、日中も暗くなりがちがキッチン。



セレクトショップを開くことが出来そうなくらいに、素敵な家具や雑貨が溢れる家。

ひとつひとつの家具を部屋から取り出して、居場所を決めていく作業からスタート。

家具の配置を固めたうえで、家族の「こうしたい」を空間に取り込んでいきました。

キッチンはLDKの中央に配置して、桜島が見える明るい開放的な形に。

それぞれの部屋に点在していた収納は、大容量のWICひとつにまとめて、ドライスペースと隣合わせにすることで家事動線にも配慮。

寝室や子供部屋は必要最小限にして、家族の集まるLDKを広く明るく。

こうして、細分化されていた4LDKは、大きなリビングのある2LDKに再構成。

お気に入りの家具も家族の一員のように暮らす家となりました。

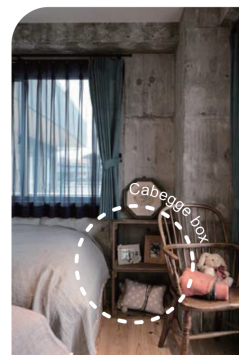
リフォーム後



降灰のある鹿児島では洗濯物を干すスペースも重要。ドライルームを大容量のWICの隣に配置。アイロンがけまで出来るようにカウンターも設置。



ルーフバルコニーから見える桜島。



打ち放しのコンクリート壁の寝室にもキャベツボックス収納。カーテンは深いブルーでアクセント。

After



図中の点線四角がお手持ちの家具類。住戸全体の床をフラットにしてバリアフリー化し、浴槽やキッチンなどの住宅設備も入れ替えてブラッシュアップ。洋室には内装窓をつけることで採光と風の通り道を確保。

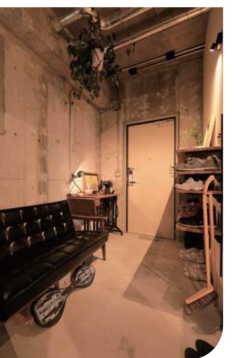


キャベツボックスをアレンジした収納を各所に！



左側の窓から桜島が一望できる。広くなったLDKには桜島が見える窓が2つに増え、以前よりも桜島を近くに感じることができる。

子供室に置いていたソファを、思い切って玄関へ。隣り合う子供室に3枚引き違い戸をつけることで、採光を確保。オープンな靴箱と合わせて、明るくフレキシブルな空間に。



3枚引き違い戸はガラス入り。採光と同時に家族の気配を感じられる。



息子くんの大好きな、ずっと愛用していた2段ベッドは、梁間に納まるようにリサイズ。下段のデスクまわりは小さなキッチンビットのよう。

応募者	設計者	施工者	築年数	構造	建方形式	竣工	工事期間	工事費	リフォーム内容
ヤマサハウス株式会社 リノベーション課 増改築・リノベる。中村智明	ヤマサハウス株式会社 リノベーション課 増改築・リノベる。	ヤマサハウス株式会社 リノベーション課 増改築・リノベる。	17年	鉄筋 コンクリート造	共同住宅	2017年10月	3ヵ月	1380万円	住宅設備の入れ替えをはじめとする 全体的な改修。

リフォーム前



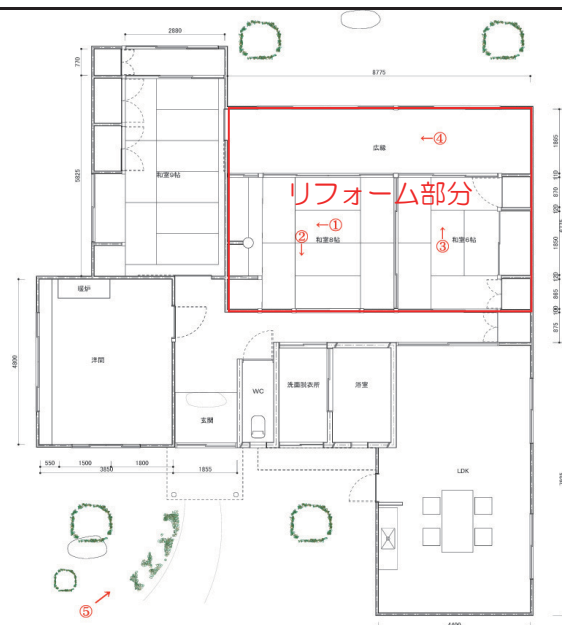
リフォーム後



- ①床の間や欄間は既存のまま。
- ②天井にダクトレールを付けて、
ペンダントとスポットライトを設けた。
- ③県産材を使って、カウンターを造作。
- ④外観に一切手を付けず、玄関に暖簾をかけただけ。



リフォーム前平面図



設計施工のポイント（増改築等の工夫）

施主様からの要望

「郊外で落ち着いた雰囲気でお客様にゆっくりとくつろいだ雰囲気の中で料理（フレンチ）を召し上がっていただけるようなレストランを作りたい。」との希望をもっておられました。築47年経ってここ数年空き家になっていた大きな古民家を見つけ、所有者にここを住まい兼お店として借りる了承を得て、この計画が始まりました。

設計から施工の流れ

「南側の庭に面した最も日当たりの良い和室二間（8畳＋6畳）と広縁部分をレストランに」床をタタミからフローリングに、壁は砂壁の上から白の漆喰壁を塗り、床の間や欄間などは原型のままで残すことにしました。省エネ的には床下等に断熱材がなかったためフローリング下にスタイロフォームを施工したことで冬の底冷えがなくなりました。県産材の杉を使ってコの字型にカウンターを作って目の前で料理ができるのを見ながら食べられる配置としました。シェフとの会話もおのずとはずみです。

リフォーム前の建物がしっかりとした材料で床の間や和室を造作してあり、借家という制約上、最低限のリフォームにとどめたことでかえって独特の雰囲気をもったレストランとなりました。今、全国の自治体が空き家問題で困っています。このリフォームのように古い空き家も簡単に手を加えただけで立派によみがえることができることを証明した好例と言えるのではないのでしょうか。古民家リフォームでは変えるところ、変えないところをはっきりと見定める事が大切だと思います。

リフォーム後平面図



応募者

設計者

施工者

築年数

構造

建方形式

竣工

工事期間

工事費

リフォーム内容

(株)小森昌章建築設計事務所

(株)小森昌章建築設計事務所

(株)インテルド

築47年

木造軸組
(平屋)

一戸建て

2017年11月

45日間

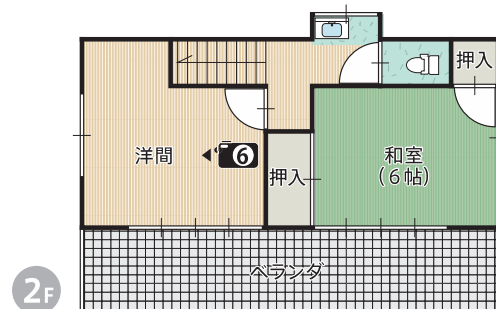
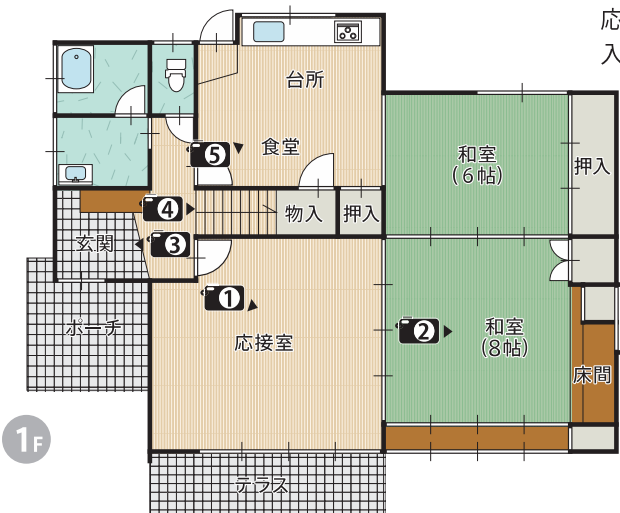
600万円

和室二間続きと広縁にカウンター形式のフレンチレストランを設けた。

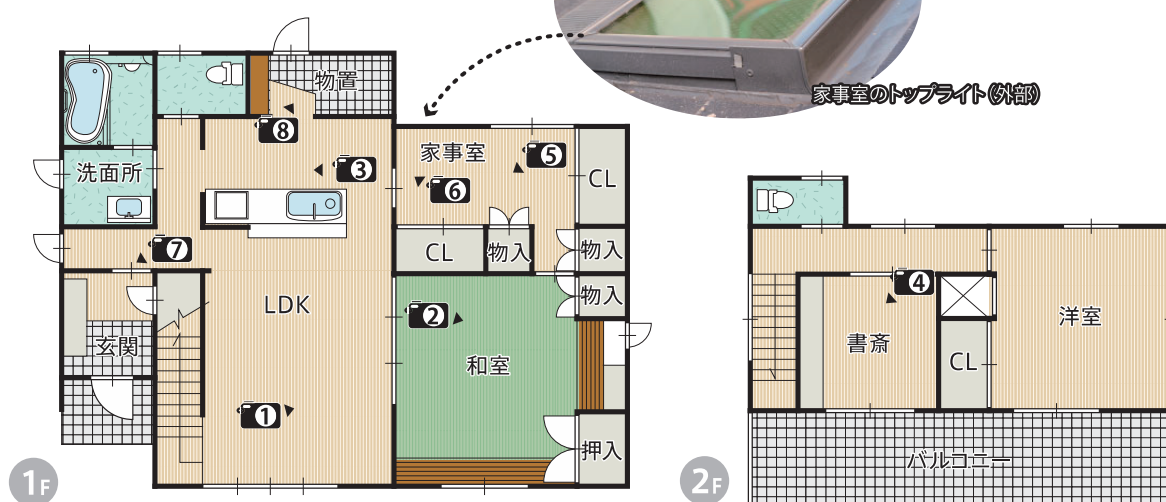
リフォーム前



セメント瓦葺き木造モルタル2階建て
2階南側に広いベランダ、1階南側には利用されなくなった
応接室と和室があり、家族の集まる台所は北側で暗く、陽も
入らず冬寒い間取りでした。



リフォーム後



建物を軽量化することで、耐震的にも安全性を高め、外壁を明るくすることで見た目にも爽やかな色彩にしました。
1階北側の和室だった部分は、裁縫が趣味の奥様のための家事室に生まれ変わり、家事室とキッチンにはトップライトから自然光が入るように工夫しました。



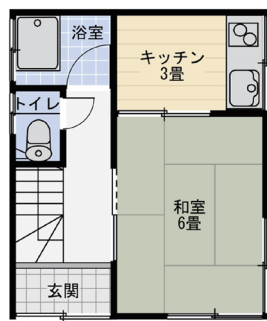
応募者	設計者	施工者	築年数	構造	建方形式	竣工	工事期間	工事費	リフォーム内容
髙建築工房匠	福迫 健	髙建築工房匠	41 年	木造	軸組 2階建	平成 30 年 4 月	140 日	1500 万円	全面リフォーム

リフォーム前

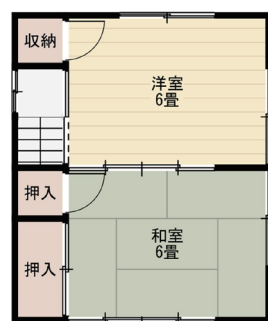
地域と人との繋がりが、地域と子供たちの繋がりを様々な角度から伝え、自らも空き家を活用し、地域と人の「繋がりの場」を提供し活動しているご主人様のMさん。そんなMさんからリノベーションの相談を頂いたのは、昨年の年明けの事。高校生まで住んでいた実家は当時空き家となっており、解体の話が出ていました。当時Mさんには長男が生まれ、マンションに暮らしていた為、近隣の住人や地域との接点が少なく、地域に見守られながら安心して伸び伸びと子育てがしたいという思いから実家のリノベーションを決意。同時に自らの暮らしを一から考え直し、自分たちが思う「自分たちにとっての豊かな暮らし、丁寧な暮らしとは何か」「自分たちのライフスタイルに合わせ変化できる暮らし方とは何か」を一緒に考えカタチにしていく事にしました。考えた中で出たMさんのご要望は「自分たちで暮らしを作りたい」「家族の時間を豊かにしたい」「子育てのできる環境を作りたい」「地域との繋がりをもちたい」という事でした。



①玄関へ入ると正面には浴室が。階段に設けられたステンレスの格子は冷やかな印象でした。
②1階の和室は聚楽調の壁と板張りの天井で、家族が集うには明るいとは言えない空間でした。
③和室の奥には、建具で仕切られた狭いキッチンが。洗濯機置き場も併用していました。
④日当たりの良い2階の洋室と和室は、家族の寝室として利用されていました。



1階平面図



2階平面図

ご実家は1,2階合わせて約15坪程。1階は居間にキッチン、2階は寝室として利用していたご主人様のご実家。コンパクトな間取りでプライバシーの確保が難しく、まだ幼い子供達に目が届きにくい環境であり、また住宅が密集してる為に日当たりが悪く、室内も明るい空間とは言えない印象でした。

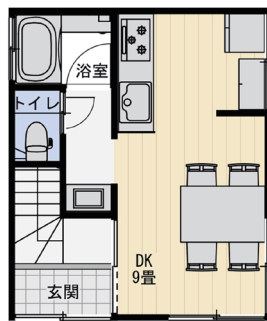
リフォーム後



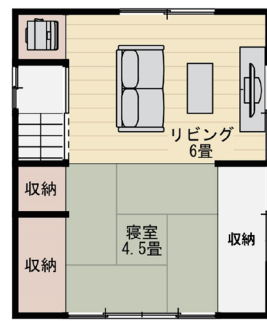
■DIYの様子



①玄関の正面には、小窓と黒板の壁を設け、遊びに来た友人や家族と写真が撮れるフォトスポットへ。お出迎えが楽しくなる仕掛けが沢山詰まっています。
②ダイニングは天井を取外し、壁を白く塗装する事で明るく開放感のある空間に。1階の床はご主人様がお父様とDIYで施工。
③閉鎖的だったキッチンは、開放的になり子供達にも目が届き、奥様も安心してお料理ができます。
④廊下には洗面脱衣のスペースを作りプライバシーを確保。新たに造作の洗面台も作りました。
⑤日当たりの良い2階は家族のリビングと寝室へ。欄間を利用しDIYで本棚を作りました。2階の床はご夫婦で張り、壁や天井は友人と一緒に塗装。塗りムラや傷もDIYならではの。どの部屋も家族や友人との思い出が詰まった愛着の湧く家となりました。



1階平面図



2階平面図

コンパクトな中にプライベートと地域とのコミュニケーションが取れる間取りを考えました。1階と2階の用途を完全に分け、1階は食事をとる空間と水廻り、2階は家族だけの空間をつくりました。2階を家族のスペースにする事で、1階は地域の方や友人、ご主人様の活動の中で知り合った仲間との集まりやコミュニティスペースとしても利用でき、道路に面した掃き出し窓に腰掛けながら、地域の方と井戸端会議もできるようにしました。キッチンを1階に設ける事で、時には料理を作りその場でふるまう事もできます。地方や県外の仲間も多いご主人様。遊びに来た仲間との記念に玄関をフォトスポットとして使える様、黒板の壁や小窓を設けました。またキッチンや洗面台は簡易的に作り、必要な収納や機能は自分たちで足していけるようにしました。工事はDIYを取り入れ、床張りや塗装は全てMさんご家族を中心に、友人や同僚の皆さんと一緒にに行いました。もちろんプロのサポートの元、出来ない所はお手伝いをしながら工事を進めていきました。自分たちが育った家に、自分たちで手を加え、その空間を自分たちで育てていく。また、ご主人様とお父様が一緒に床を張る姿は感慨深いものでありました。その姿がお子様のY君の記憶にずっと残り続けていくのだと思います。これからの暮らしの変化に合わせて、要素を足していけるよう良い意味で未完成なMさんのお家。ご家族のライフスタイルに合わせてDIYで変化していくMさんご家族の今後の暮らしがとても楽しみです。

応募者	設計者	施工者	築年数	構造	建方形式	竣工	工事期間	工事費	リフォーム内容
(株)大城	(株)大城建築設計事務所	(株)大城	30年	在来木造	一戸建	平成29年12月	60日間	400万円	内装全面リフォーム(一部DIY施工)

リフォーム前

外観



昔ながらの二間続きの和室に和式トイレ、小さな子供が暮らすには少し不便な、築 45 年の木造住宅。耐震診断、インスペクションを実施し建物の現状を把握。

その結果、雨漏りによる傷み、仕上材に一部劣化は見られたが、構造体の状態は良かったため躯体を残し、家族が安心して快適に過ごせ、コミュニケーションが自然にとれるようにプランを検討。



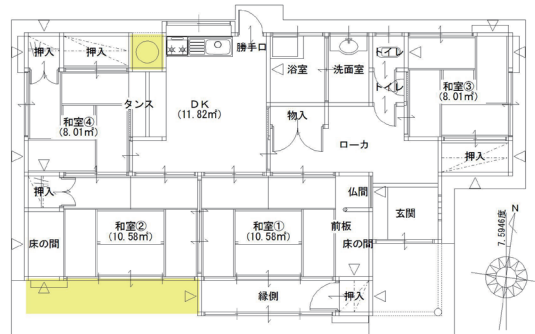
和室



キッチン



浴室



リフォーム後



外観

傷みのあった外観は全て張替え、明るく木の優しい雰囲気。外装については、耐震性を考慮し軽くて丈夫なものへ刷新。床・屋根はフェノール樹脂の断熱材、壁には吹付の断熱材を施工し、断熱性能の向上を図った。耐震・断熱、目に見えないところへの対策も重視し、安心・安全・快適に過ごせるようにこだわった。



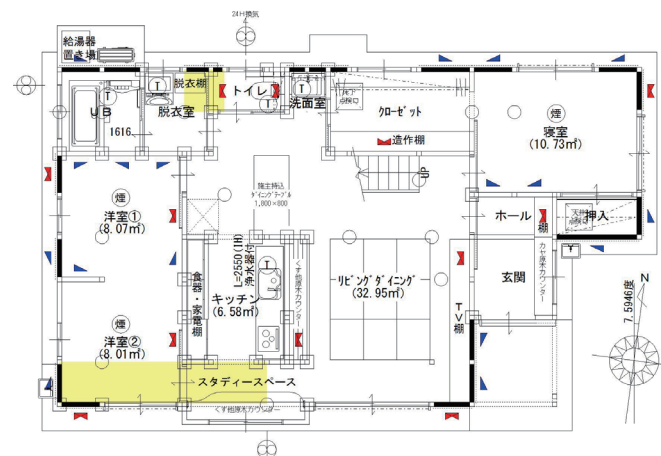
スタディスペース

家事や仕事、勉強をしながらコミュニケーションがとれるようにキッチン横に配置



キッチン

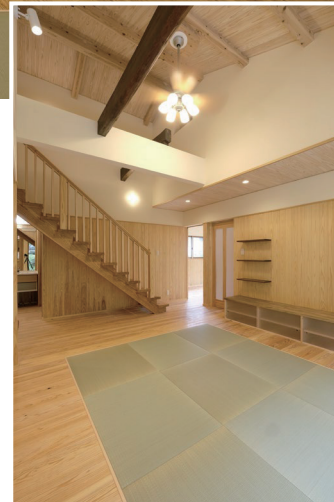
北側にあり暗く感じた台所が、子供たちの目の行き届く使い勝手の良いキッチンへ



リビング

●家族が自然と集まる空間に

南側の庭に面した家の中心に LDK を配置することで明るく、家族が自然と集まる空間へ。吹き抜けを設け、開放的な空間を演出。内装材には無垢材をふんだんに使用し、木の香りが心地良い、家族の笑顔を包み込む、強くやさしい木の住まいへと生まれ変わった。



大容量ウォークインクローゼット



トイレ・浴室・脱衣所は全て刷新。全体に木を施し、木の温もり感じる空間に



応募者	設計者	施工者	築年数	構造	建方形式	竣工	工事期間	工事費	リフォーム内容
(有)ゆうあいプラン	(有)ゆうあいプラン	外園 繁人	45 年	木造	木造 1 階建	平成 30 年 6 月	180 日間	1,600 万円	増築、耐震補強、断熱、外装、設備



今年で第28回を迎える「住まいのリフォームコンクール」は、
広く県民の方々に住宅リフォームの普及促進と質の向上を図るべく、
(公財) 鹿児島県住宅・建築総合センター主体の元、実施しているものです。

平成30年10月
発行：鹿児島県住宅リフォーム推進協議会